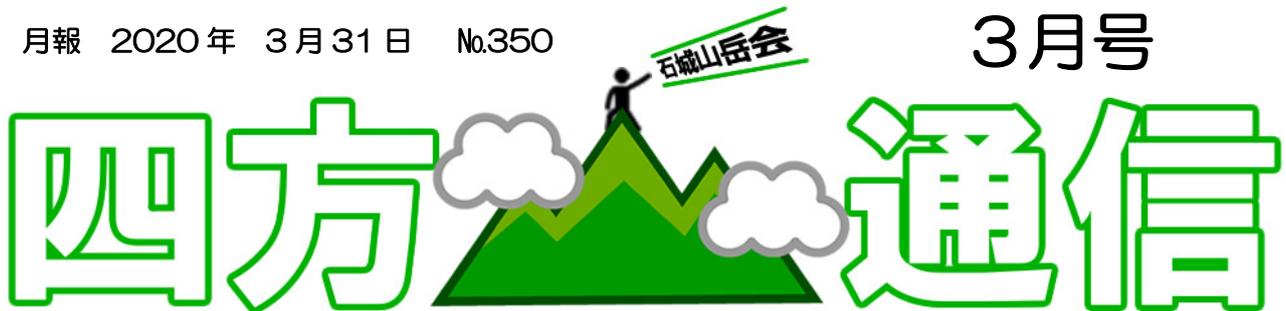


月報 2020年 3月31日 No.350

3月号



石城山岳会事務局編集

指導委員会 令和元年度積雪期技術研修会

指導委員会 令和元年度 実践山スキー・スノーシュー研修会
塩沢スキー場からくろがね小屋

2020年 山スキー合宿

矢大臣山 964.4m

八潮見城跡(遠野の山城)・御齊所山

似蕪山敗退 963.2m

2020年 山スキー合宿(前編)

葛尾村・五十人山

弁天山から十万劫山、下山後に花見山公園

「古賀志山」南北コース周回

足利行道山から剣ヶ峰（大岩山）

三轟山（みかもやま）散策

ニッ箭山整備山行

勝賀岩（160m）と宗賀岩（190m）

横根山、都室山の早春の花々

指導委員会 令和元年度積雪期技術研修会

日時：令和二年 1 月 25 日（土）13:00～1 月 26 日（日）12:00

場所：那須甲子青少年自然の家

参加者：平子、渡辺（敏）秋葉、菅野、柏村、西、遠藤、甲高、伊藤、渋谷、菊池、山縣その他 7 名

1 月 25 日 13:00～16:00

1 日目は午後から研修を開始。開講式の後、指導員資格認定講習組と一般の積雪期技術訓練組とに分かれて、室内研修を行った。指導員資格講習組は資料を参照しながら、冬山の装備、雪崩の対処方法等の机上学習を行った。ピッケル、アイゼンを用いた滑落停止の操作、雪崩の予想を確認する弱層テスト、ビーコン、ゾンデ棒による埋没者の搜索の仕方等を学習した。

積雪期技術訓練組は、雪山登攀におけるスタックアップ登攀に際して使用される、スタンディングアックスピレイの仕方を独自にできるように、一人ひとり操作を確認しながら訓練を行った。

1 月 26 日 8:30～12:00

2 日目は、昨日机上学習で確認した操作を、資格講習組と一般組に分かれて雪上で実地訓練をおこなった。

資格講習組は二班に分かれて 1 班は秋葉さん、2 班は七宮さんの指導の下、デッドマン、スノーバー

それにピッケルを用いたアンカーの取り方、ビーコンを用いて埋没者を探す場合の注意点などを確認した。昨日室内で行ったスタンディングアックスピレイを、雪上で実際の負荷がかかった場合の脱出方法を一人一人訓練を行った。負荷がかかるとなかなかスムーズに操作ができない。プルージック、ストップノット、オーバーハンドノット、ムンターヒッチ等の操作がなかなかうまくいかない。しかし、繰り返すことによって操作に慣れてそれぞれ所期の目的を達成することができた。今年は暖冬で積雪量を心配したが、自然の家の上部で何とか訓練できた。

訓練終了後、研修室に戻り閉講式をして終了した。

文責 渡辺敏夫



滑落停止訓練の様子

塩沢スキー場からくろがね小屋

令和2年 2月9日(日)

参加者 平子、渡辺(敏)、秋葉、西、渡辺(恵)、齋藤、柏村、菅野、伊藤、渋谷その他9名
(スキー6名、スノーシュー13名)

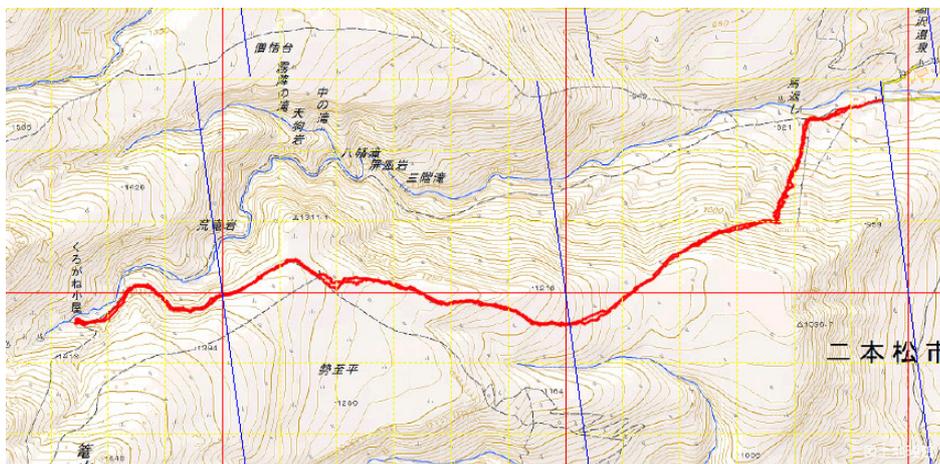
毎年開催している指導委員会主催実践山スキー・スノーシュー研修会を、昨年と同じ場所である安達太良山塩沢スキー場からくろがね小屋まで往復の八町林コースで行った。昨年は勢至平止まりだったので、今年はいくろがね小屋まで行けるように実施した。今年も積雪が少なく実施が危ぶまれたが、何とか実施できる積雪があった。早く進むために、スキー場最上部までのリフトを使用する予定であったが、残念ながら短いリフトしか動いていなく、一部の参加者がリフトを使って途中まで進んだ。スキー場上部からは林道のあとをたどったので、藪の心配がなかったが、途中からは、密なブッシュに阻まれて進むのに手間取るところも多くあった。天候は時折ガスがかかる状況だったが、スキー、



スノーシューで歩くにはまずまずであった。スキー隊とスノーシュー隊とに分かれて進んだ。まず、スキー隊が先行した。途中勢至平でスノーシュー隊を待って、スノーシュー隊の先頭が到着したのでスキー隊はいくろがね小屋まで先に進むことにした。スノーシュー隊は勢至平までとしてそこから引き返したことが後で分かった。スキー隊は

くろがね小屋で昼食をとり、塩沢スキー場へと引き返した。

コースタイム 塩沢スキー場 9:00→9:44
スキー場上部 10:01→11:23 勢至平 11:38→12:12
くろがね小屋 12:57→13:35 勢至平 13:50



→スキー場上部 14:27→スキー場 14:35

文責 渡辺敏夫

2020年 山スキー合宿 1日目 猪苗代スキー場

2020.2.28 (金)

山スキー遠征合宿も9年目を迎えた。今年は事情があり北海道をキャンセルし磐梯山周辺とした。山スキー、バックカントリーを楽しむ為の第一条件は、安全に滑り下りる技術です。まずはゲレンデで実践的なトレーニングを積みましょう。

1日目



今年は異常気象により、全国的に降雪量が少なくスキー場は壊滅状態だ。ここ猪苗代スキー場は、はやま第2リフトは雪不足でスキーを抱えて乗り、はやま第4リフト周辺で基礎からのレッスンを開始した。



アクシデントは重なり、予約していた「磐梯青年自然の家」はコロナウイルスの関係で、急に休業の連絡があり、急遽宿舎を「大和ロイヤルホテル」に変更した。レッスンの成果をみんなで確かめ合った。

2020年 山スキー合宿 2日目 箕輪スキー場

2020.2.29 (土)

2日目 昨日に続いて今日は、皆さんに是非とも身につけてほしい「絞り」の技術について理論と実践

にトライした。これを習得すれば滑りが格段に変わる事を感じてほしい。

(急斜面最大斜度 30 度)



(急斜面最大斜度 25 度)



箕輪スキー場エンジェルストリート (急斜面最大斜度 30 度) 最上部にて
皆さん熱心にトレーニングに励み、スキー技術の向上目覚ましい2日間のゲレンデレッスンでした。

2020年 山スキー合宿 3日目報告 3月1日

参加者 秋葉信夫、下山田、渡辺敏夫、山内

昨日、いくつかある山スキーコースの登山口の雪の状況を見てきて、八森山の東尾根に決めた。

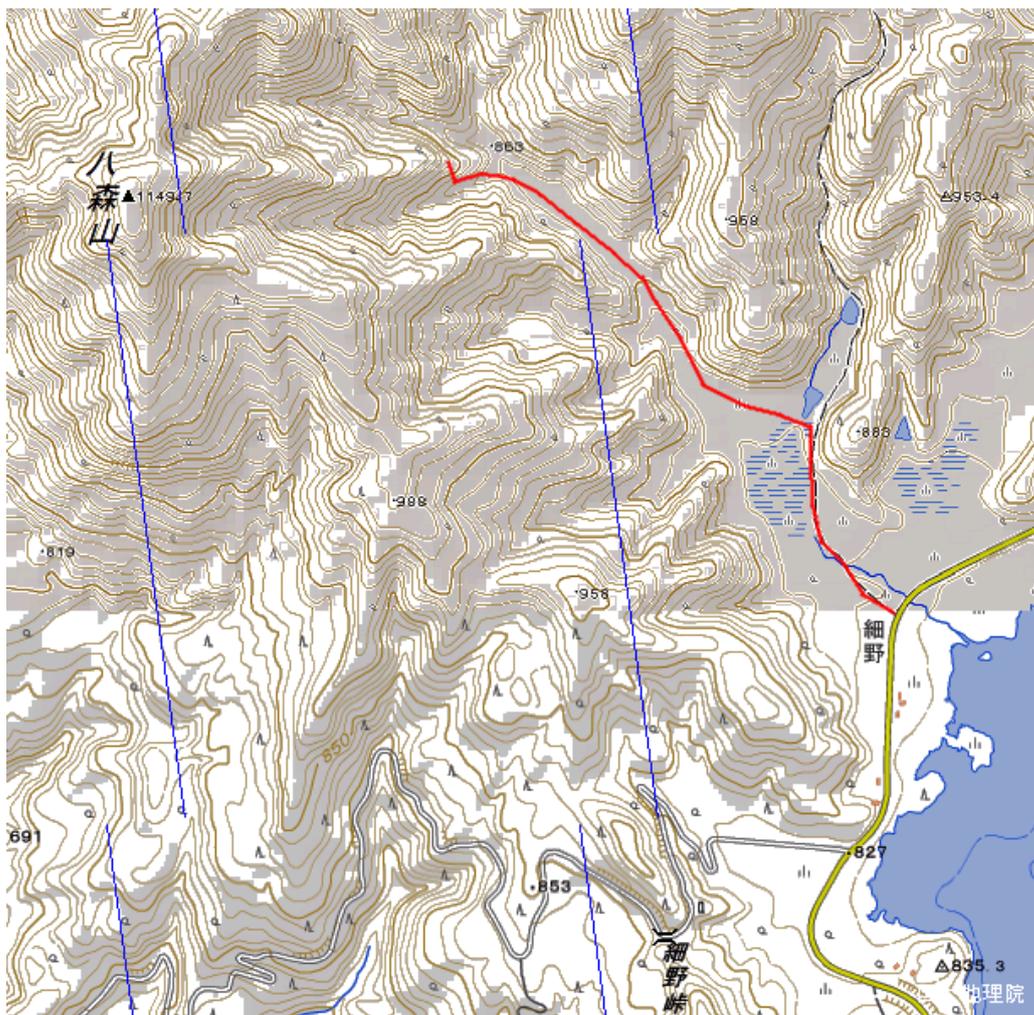
遊歩道から入るが、途中から遊歩道から外れると、沢が埋まっておらず何度か途渉に苦勞する。写真のようなところも。

やっと斜面に取りつく、雪が少なくなり雪を脱いで急斜面を藪につかまりながら尾根に出た。

しかし、雪が続いておらず、ここから戻ることにした。こういう言うこともあるね、それも楽しみの一つ。

(文責：秋葉信夫)

3日目、4日目は4月号につづく(予定)



山行報告 矢大臣山 964.4m

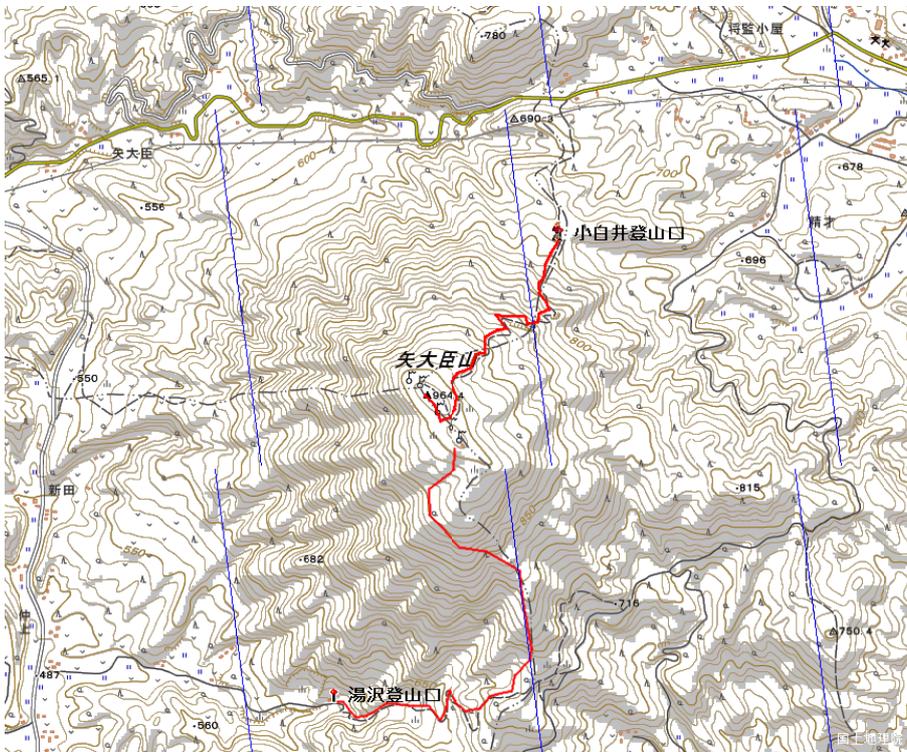
2020年3月7日 秋葉信夫

矢大臣山は台形の山容と、頂上に多くのアンテナが林立しているのどこから見てもわかる山です。何度も登っているが、いつも湯沢登山口からなので今回は小白井と登山口から歩いてみた。



小白井から登山口の分岐に一般車両進入禁止の看板が立っているが、そのまま500m程度進むと数台止められる駐車スペースとゲートがある。この道路はアンテナ巡回路で頂上まで舗装されて45分

についてしまい、少々味気ない。



頂上には祠と三等三角点、展望台、多くのアンテナがある。展望台に上ると白銀に輝く那須、安達太良。大滝根山

をはじめとする阿武隈の峰々や太平洋と360度の展望である。小白井風力発電は痛々しい。登山口7:15→頂上7:45

八潮見城跡(遠野の山城)・御齋所山

2020年3月7日

下山田、蛭田(会友)、佐藤(3期登山教室申込者)

八潮見城に行ってきたが、「石城山岳会60年記念誌に八潮見城は乗っていないね」と電話があり、恥ずかしながら自分も承知置きなかったので連れってもらうことにした。合わせて御在所山、時間があれば滝富士山をと出かけた。



八潮見城の案内図

遠野公民館に駐車し、登山開始。

案内板にひかれて鳥居の満開の梅に見送られ鳥居のある登山口へ。

しばらくは急騰が続き、祠を横に見ながら登っていくと前方に亀石と命名された石までロープを頼りに登る。

そこは「しのぶ平」で4等三角点が置かれていた。下りながら回り込んでいくと八潮城跡跡地。道筋には深堀、堀井戸、曲輪等城の作りが解る。下山口には大きな熊野神社があった。

{コースタイム} 公民館 8:25-9:12 しのぶ平-10:16 公民館



祠がおかれている

御齋所山

神社に車を置き山頂を目指す。林道のカーブを2か所回り込むと山頂神社への階段216段続く。裏手を50mほど行くと眼下に国道、鮫川を望む。

{コースタイム} 10:43 神社-11:00 山頂神社-11:20 駐車場

その後、井戸沢断層を見学し、食堂呑気で昼食!



山頂には4等三角点がおかれていた



八潮見城跡地



山行報告 似蕪山敗退 963.2m

2020年3月8日、秋葉信夫

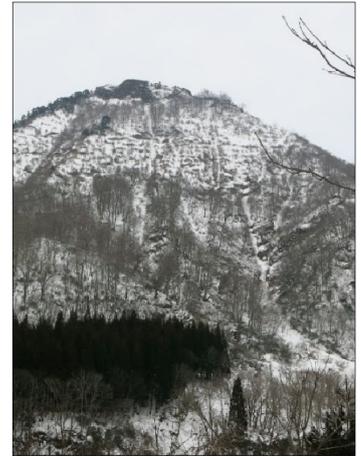
似蕪山は只見町と金山町の境界に位置し、只見の笠倉山と塩沢川を挟んで対峙している山です。麓からは手前の山に遮られて見分け難いが、現燈山に登った時に途中から見えた特異な形（烏帽子を被ったような尖った山頂）に魅せられ、何時か登りたいと思っていた。



塩竈神社

登山道はないが頂上近くまで作業道が伸びている。標高差600m程度なので、積雪期ならそれらを辿って簡単に行けるのではないかと考えて出かけたが・・・。

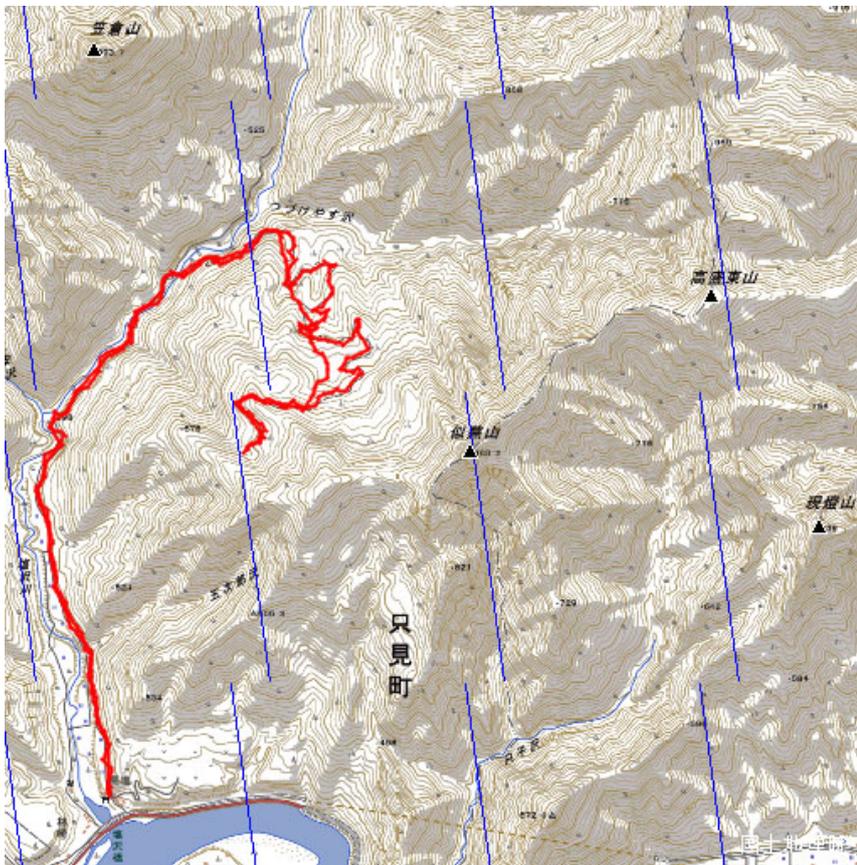
朝2時に自宅を出発、途中で30分ほど仮眠し、6時に只見町塩沢地区の塩竈神社に着く。車が入れるのは塩竈神社まで、ここから平坦な笠倉岳近くまで伸びている農道・林道を1.5km進みスノウシューを着ける。



笠倉岳

MSRの古いスノウシューでベルトが切れたので、靴紐に替えたがこちらの方が締め易くて正解。

一の平橋を渡り作業道に入るが重い雪で遅々として進まない。それに距離が長い。何とか作業道終点まで行ったが、300m登るのに3時間30分かかっている。頂上まではあと3時間以上かかるだろう。時間もさることながら、ここまでに体力もクタクタだ。戻ることにする。



登り：塩竈神

社 6：40→一の平橋 7：45→林道終点 10：10

下り：林道終点 10：20→一の平橋 11：25→塩竈神社 12：30



作業道終点

葛尾村・五十人山

2020年3月12日(木)

参加者 秋葉、吉田、柏村、尾形夫妻、栗崎夫妻 計7名

木曜デザートクラブの山行で、葛尾村の五十人山を訪れた。

葛尾村のせせらぎ荘の奥に車を止めて、歩き始める。

すぐに、五十人山登山口の案内板がある。山頂まで2.6Km。

整備された歩きやすい、広い登山道だ。

歩き始めは、赤松林の中を緩やかに登っていく。

やがて、冬枯れのコナラや栗、ぶなに植生が変わってくると、見通しの良い、清々した、しかし、晩秋のような悲しげな山肌が一面に広がっている。

まもなく、双耳峰の五十人山のコルに到着。とても広い芝の山に躑躅がたくさん植えられている。

アンテナがある三角点には行かず、五十人石がある峰に向かう。

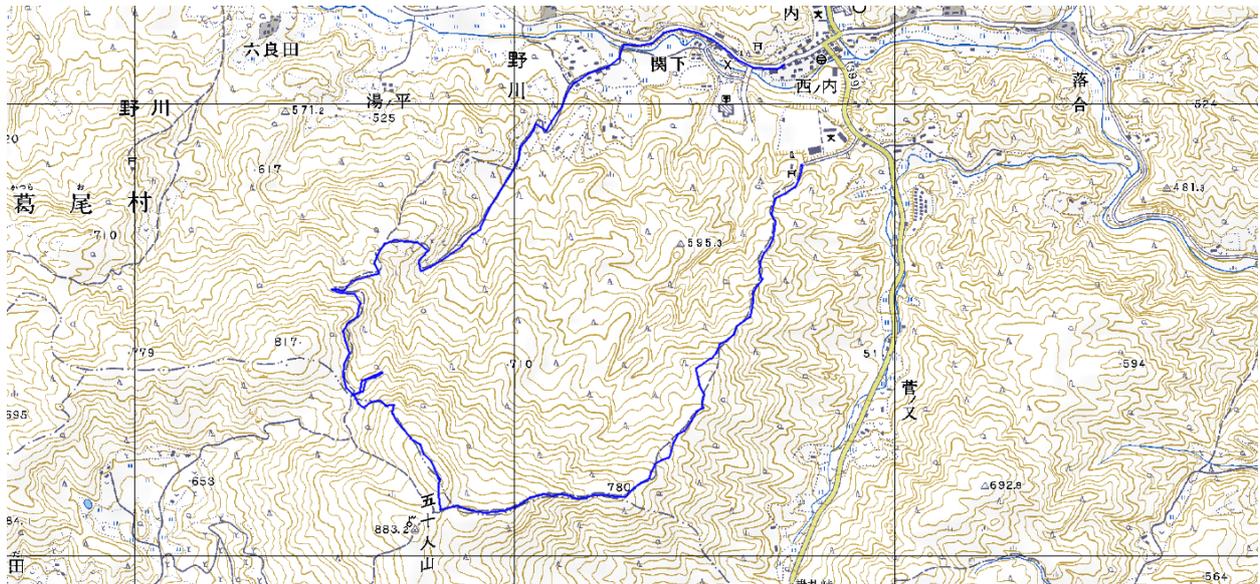
坂上田村麻呂が蝦夷地平定の折、この山頂の大石に侍従五十人を座らせ戦略を練ったと伝えられている。

また、弘法大師が奥州巡教の折、五十人石に延命地藏を刻み、冥福を祈り、里人に仏の道を説いたとされている。

登りとは違う道で降りるが、これもまた整備された、歩きやすい登山道。林道に合流して、浪江三春線を少したどれば昼食をとる石井食堂に到着。

今回も、歩いて消費したより、余計にカロリーを摂取してしまう。

(文責・栗崎透)





弁天山から十万劫山、下山後に花見山公園

2020年3月15日 太、山縣、菊地、西、斎藤、他1

花の季節、福島市渡利の弁天山公園から十万劫山、花見山公園へ縦走しようと思っ

た。弁天山公園の東口駐車場に駐車して、まずは弁天山に登る。福島市在住の斎藤会員とは、公衆トイレのある駐車場で合流と連絡していたが、東口駐車場のほか中央駐車場にも公衆トイレがあって合流に手間取った。頂上近くで何とか合流し、展望台や巖島神社などを一緒にめぐることができた。弁天山は低い山だが、阿武隈川そばにあって、さえぎるものがなく展望は十分。眼下に市街地と信夫山、その向こうに蔵王や吾妻の山々が望める。

景色を楽しんだ後、案内板に従い、「しのぶの細道コース」をたどって一度下り、車道を横切って、「的場石」目指して大平山配水池の脇を登っていく。的場石は、縦走路の樹林の中に立つ奇岩で、案内板によると、その昔、弓の名人である那須与一が的にして信夫山から射かけたとのこと。的場石を過ぎ、絵馬平の民家の脇で車道を横切るまでの途中、一か所四阿があったが、トイレはない。さらに登っていく途中で岐があり、先に花見山へ向かうか皆で相談したが、結局は十万劫山へ向かうことになった。

十万劫山の頂上には雷神神社が祀られ、三角点もその傍らにある。皆で雷神様の前で記念撮影。しばし休憩後に下山開始。林道に出会うと、その後はずっと道なりに茶屋沼公園まで下った。

時間の関係により花見山の周回散策はやめ、先行した斎藤会員の車で、茶屋沼公園駐車場から弁天山公園駐車場まで送ってもらう。途中、花見山は少しだけ立ち寄った。

(文責：太)

コースタイム

8：30 弁天山公園東口駐車場→8：55 弁天山三角点→9：10 巖島神社・西側展望台→9：40 的場石

→10：05 休憩小屋（四阿）→10：55 花見山分岐→11：30 十万劫山→12：20 茶屋の桜

→12：40 茶屋沼公園駐車場 車で花見山公園に立ち寄り弁天山公園に戻る。



弁天山からの信夫山



弁天山からの吾妻山



的場石（まといし）



十万劫山の雷神神社



花見山公園



第二花見山

「古賀志山」南北コース周回

2020年2月23日 太

栃木県の関東百名山に登りたい思い、まずは宇都宮市の古賀志山に登った。

前日に移動して、道の駅うつのみやろまんちっく村に車中泊。この道の駅には、天然温泉「湯処あぐり」があるので、登山の前後に立ち寄りたい場所。ここから古賀志山は近い。

車で登山口のある森林公園に向かうと、天気はますます。森林公園の駐車場は、かなりのスペースがあり、水洗の公衆トイレも完備。サイクリングコースがあるので車から自転車を下ろす人々も見かける。

駐車場から舗装道を歩き、ダムや釣り堀跡を過ぎると、北コース登山口はすぐで、案内板がある。ここから砂利道を少し行くと樹林の中、木の根や石の転がる小路になる。徐々に登っていくと、作業道やら別コースやらがあって少し戸惑うが、道標をたよりに進めば大丈夫。急登を過ぎると富士見峠。残念ながら富士は見えない。峠から岩尾根を少し歩くと頂上。広く、ベンチもあるので、ひと休み。遠く関東平野が望めるが、春霞でぼんやり。

下山は、多少のクサリ、ロープがあるものの、最短ルートの斜面を下り、南コースを通過して赤川ダム、公園駐車場まで戻った。

コースタイム

7:35 森林公園駐車場→7:45 赤川ダム→7:55 釣り堀→8:00 北登山道入口→8:10 東稜見晴分岐→8:40 富士見峠→8:55 古賀志山→9:30 サイクリングロード出合→9:40 南コース入口→9:55 膳棚駐車場分岐→10:10 赤川ダム（自然休養村管理センター）



古賀志山の頂上



頂上からの眺め



赤川ダムから眺める古賀志山



赤川ダム

足利行道山から剣ヶ峰（大岩山）

2020年2月23日 太

古賀志山を下山後に、車で移動し、足利の行道山に登った。「関東の高野山」といわれる和銅6年（713年）創建の古刹、行道山浄因寺の付近から登れば、手軽だし、駐車にも苦労しないので、浄因寺の駐車場を起点に、ピストンした。

駐車場から庚申塔や石仏をながめながら参道を登ると、なかなか急登？で、山門をくぐった先が境内。目の前に清心亭の岩峰にかかる天高橋（あめのたかはし）が現れる。葛飾北斎の版画のモチーフとなった場所である。橋の下の切通しの向こうは、簡易なモノレールの終着点で、公衆トイレがある。

境内の堂宇の裏手から林の中を登って行くと、露岩に無数の石仏が置かれた涅槃台に至る。家族連れが置かれたテーブル、ベンチで楽しそうに食事中だったので、写真は寝釈迦を諦め、足利の街並みだけ収めた。少し戻って、仏法僧峠と呼ばれるコルまで登る。石尊山見晴台の反対側のピーク（434m）が浄因寺の奥の院（行道山）かな？と思い、行ってみたら、台座のみになった祠の跡があるだけだった。引き返して石尊山見晴台に行くと、四阿、ベンチ、方位盤などがあり、「行道山」の表示があった。後で知ったのだが、実は行道山という峰はなく、見晴台は（442m）は無名峰で、石尊山を近くに見渡せる場所だとのこと。遠く赤城や榛名など群馬の山々が望めたが、富士山を見ることはできなかった。

しばし休憩後、両崖山まで行くと歩きだしたが、長い道のりを引き返すことを思い、剣ヶ峰（大岩山）までで折り返し、下山した。

コースタイム

11:40 浄因寺駐車場→11:55 浄因寺→12:00 公衆トイレ→12:10 涅槃台（寝釈迦など石仏群）→12:20 仏法僧峠→12:25 石祠跡（434mピーク）→12:35 石尊山見晴台（442mピーク「行道山」）→12:55 剣ヶ峰（大岩山）→12:40 浄因寺→14:25 浄因寺駐車場



清心亭と天高橋（あめのたかはし）



葛飾北斎「諸国名橋奇覧 足利行道山くものかけはし」



寝釈迦のある涅槃台から見る足利市街



石尊山見晴台（行道山山頂）、後方に赤城山

三轟山（みかもやま）散策

2020年2月23日 太

行道山に登った後に、「道の駅どまんなかたぬま」に立ち寄り、食事した後、国道50号線を東進して、「道の駅みかも」に到着。その裏山が関東百名山の三轟山、「みかもやま公園」。遅い時間だったが、関東百名山なので、行って見た。

公園南口で案内版をみると、ほぼ一直線に山頂の神社に向かうハイキングコースが描かれていた。暗くなりかけていたので、行動限界時間を概ね17時と定め、行けるところまで行こうと、登っていく。

ハイキングコースとはいえ、石段がずっと続くので、少々しんどいが、ものの15分程度で「三轟神社」まで登れ、そこから10分で三角点のある中岳（210m）頂上に立つことができた。途中グライダー離陸場辺りで予定の17時になったが、栃木市方面の眺めが良く、まだ明るかったので、山頂広場を経て、「みかもの関跡」まで行って見た。周囲が暗くなりかけたので、「花籠石」まで登り、灯りのつきはじめた佐野市を眼下に眺めてから、舗装の園路を歩いて公園南口まで戻った。

まだ花の季節ではなく、時間もなかったため、最高点の青竜ヶ岳（229m）までは行かなかったが、カタクリなど花の美しい時期にゆっくり訪れたいものだと思いながら、国道50号線を茨城県方向に車を走らせた。

コースタイム

16:45 みかも公園南口広場→16:50 園路出合→16:55 園路出合（三轟神社鳥居）→17:00 三轟神社→17:05 蠟燭岩→17:10 中岳山頂（三角点）→17:15 山頂広場→17:20 みかもの関跡→17:25 花籠石→17:50 わんぱく広場→18:00 みかも公園南口広場



三轟神社



中岳山頂の三角点



みかもの関跡



花籠石から見る佐野市街

甲府夜景と富士展望「大菩薩嶺」

2020年2月29・30日 太、山縣、菊地、西、二瓶

一年で一番空気が澄んだ冬の季節、泊りがけで日本百名山「大菩薩嶺」を登った。

ふだんは、車で上日川峠まで行くと、1時間くらいで頂上に立てるのだが、道路の冬期閉鎖で標高差600mほど余分に登る必要がある。ゲート前、丸川分岐駐車場に車を止め、登山開始。駐車場は30台分くらいか。トイレはないが、国道411号線から来る途中に公衆トイレが1、2か所ある。

天気はまずまず。ゲートを越し、車道の最初の左カーブで車道から登山道に入る。林の中を登って別れた車道に出会うと、そこが千石平。車道から右に橋を渡ると千石茶屋だが、冬期のせいか営業してなかった。茶屋の前を過ぎ、尾根に取り付いて、ずっと登って行くと上日川峠で、道路脇に公衆トイレもある。ロッヂ長兵衛で、みそ汁やほうとうをいただきながら昼食休憩。ほうとうは、具の種類も多く、ボリュームがあって、オススメ。上日川峠から福ちゃん荘までは車道に並行した登山道を歩いた。福ちゃん荘を過ぎて勝縁荘あたりに来ると、雪が積もった登山道登りが始まり、軽アイゼンを装着。

午後3時前には大菩薩峠、介山荘に到着。宿泊は我々以外に女性客が一人で、ほとんど貸し切り状態。夕食は、たっぷりサラダに家庭風のカレー。小屋オーナーから親切丁寧なもてなしを受け、興味深い話に楽しいひとときを過ごさせてもらった。暗くなった屋外は、甲府盆地に明かりが灯り素敵な眺め。

翌朝は雲海から登る朝日で微かに赤い富士を望む。甲府盆地は雲の下だが、その向こうには鳳凰三山ほか名だたる山々が並ぶ。おいしい朝食の後、早めに小屋を出発したが、つい美しい景色を眺めてしまい、なかなか歩みが進まない。賽の河原を過ぎ、雷岩の先からは軽アイゼンを装着して登る。

大菩薩嶺は、標柱2本と三角点があったが、話に聞いていたとおり眺望がないので、しばし休憩後に丸川荘に向け雪道を下った。丸川荘から雪はなく、ひたすら下山し、麓の温泉で入浴後の昼食となった。

(文責：太)

コースタイム

【2/29】

10:50 丸川分岐駐車場(ゲート前) → 12:05 上日川峠(ロッヂ長兵衛) → 13:35 福ちゃん荘
→ 14:50 大菩薩峠(介山荘)

【3/1】

7:55 大菩薩峠(介山荘) → 8:20 賽の河原(大菩薩峠休憩舎) → 9:10 雷岩 → 9:20 大菩薩嶺
→ 11:00 丸川荘 → 13:00 丸川分岐駐車場(ゲート前)



ニッ箭山整備山行

2020.3.19(木)

秋葉、下山田、尾形夫妻、柏村、蛭田(会友)

ニッ箭山駐車場に集合し、車二台で桐ヶ丘大山祇神社へ移動。車を停めて舗装道路を歩き始めるとまもなく道路が崩れているところがあり、そこから先は大きな木が何本も倒れていました。

「月山へ」という表示の所を過ぎて左側の沢から山へ入ります。

整備のため今回はノコギリ、鎌、剪定ばさみを持って行きました。鎌やノコギリでは柔らかいものは掴まないとうまく切れないけれど、トゲのある野イバラやクマザサ、細い枝も簡単に切れる剪定ばさみが役に立ちました。

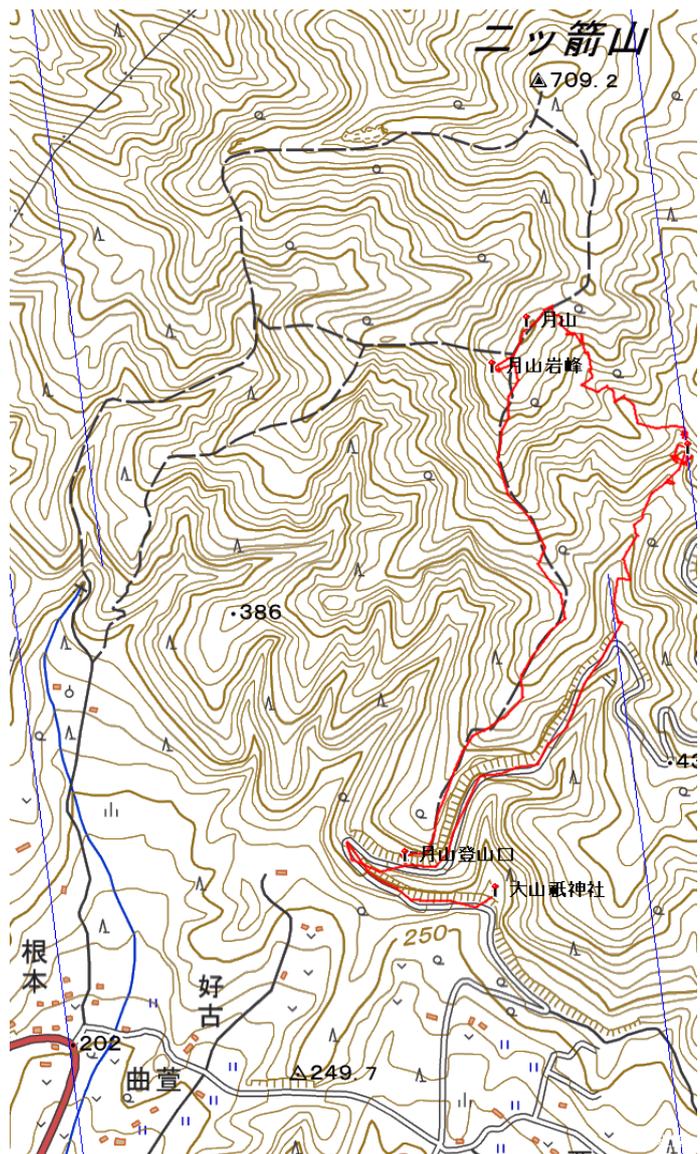
整備しながら進むと滝が見えてきました。この滝に名前を付けようと皆さんで考えましたが。。見た通りの「二段の滝」でしょうか？ここで蔓のデザートタイムをとり滝を眺めました。

このすぐ上がとても急なのでトラロープを設置すること。秋葉さんに木に二回巻きプーリン（ボーライン、もやい結び）と末端処理を教えてくださいました。そして滑らないように50cmくらいおきにコブを作りました。トラロープはいつものロープと違い、硬くてねじれも強くてとても扱いに良かったです。

登るにしたがってだんだん大きな岩が多くなってきて水も流れています。平らな大きな岩が斜めになっていて腰の高さくらいあるので上まで足が届きません。手がかりも足掛かりもなく諦め、脇の水が流れている細い所を登ろうとしたりしましたがここにも手掛かりがなく苔が滑ってどうしても登れなくて困っていたら、先に登っていた秋葉さんが平らな岩の所にトラロープを垂らしてくださいました。末端に8の字を作りそれにつかまって登ることが出来ました。ロープが一本あるだけでこんなにも安定して楽に登れることを実感。

今度は下山田さんにこの場合の確保の仕方を教えていただきました。周りに支点となる木などが無いので自分が岩の上にお尻をつけて座って踏ん張り、体にロープを回して自分が支点になります。

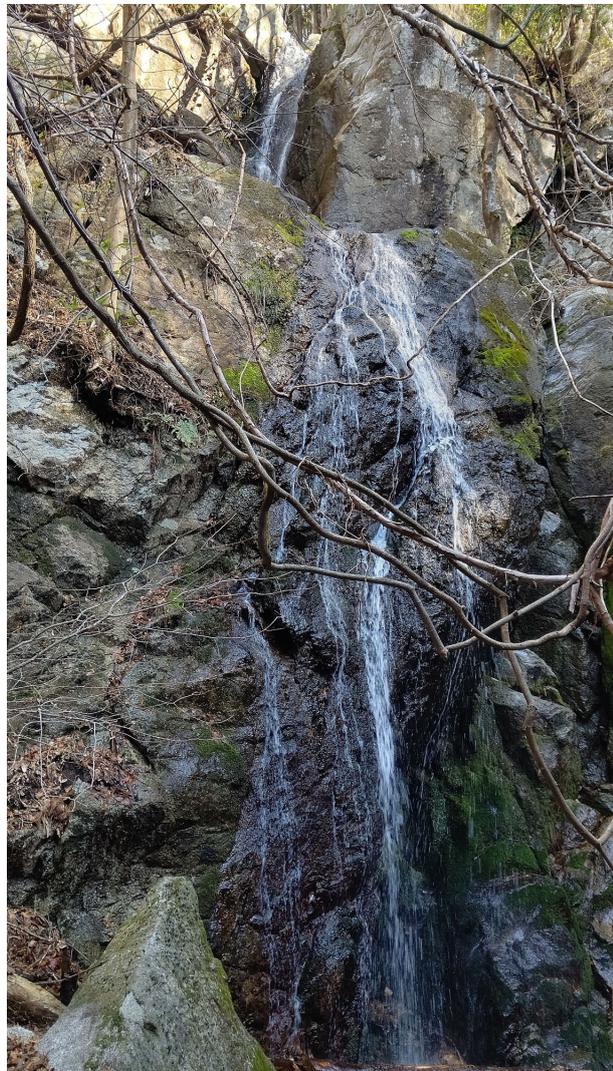
クマザサを刈りながら登っていくと月山の少し上に出ました。頂上へは行かず月山新道を下って行く時に左側に見える大きな岩へ行き、本格的なデザートタイム。大きなボタ餅や煮豆、からし菜のお漬物、バナナなどをご馳走になりました。



桐ヶ丘コースを下り月山登山口へ無事下山。お天気も良く暑いくらいでした。アカヤシオが咲くのも、もうすぐでしょうか。

コースタイム 7:30 ニッ箭山駐車場集合→7:50 桐ヶ丘大山祇→9:00 二段の滝→11:00 月山岩峰→12:40 桐ヶ丘大山祇に下山→13:00 ニッ箭山駐車場解散

文責 柏村貴子



勝賀岩（160m）と宗賀岩（190m）

いわき市四倉町

勝賀岩という名前は、寛永3年、名僧勝賀和尚が焼失した金光寺本堂再建のため、白岩の砂岩洞窟にこもり座禅托鉢をいたと言われることに由来する。松茸の産地として名高い四倉町玉山・白岩地区にある。白亜紀双葉層郡玉山層の砂岩の山で、奇岩が塀立する山頂からは太平洋が一望できる。



ワンダーファームコース



常磐道四倉IC近くのワンダーファームから常磐道のトンネルをくぐると舗装が切れる。そのまま進みワンダーランド、貯水池を過ぎると道が二股になるので車をここに置き林道歩く。林道が切れ右側の尾根を忠実にたどると岩の頂に出る。山頂はその先、もう少し進むと標高約160mの勝賀岩。

し進むと標高約160mの勝賀岩。

藪気味の尾根を辿り、標高190mの三角点のあるところが宗賀岩。勝賀岩まで約45分、そこから宗賀岩まで約15分。

白岩コース

いわき浪江線（県道35号線）を常磐道の下をくぐると間もなく作業道の入口がある。ここに車を停めて歩き始める。白岩川を渡渉し作業道を忠実に辿り約40分で勝賀岩に着く。



玉山コース



玉山鉱泉を過ぎ旧八茎鉱山に向かっていくと右側に観光案内の看板が立っている駐車場がある。ここから

歩き始める。

堰を渡ると玉山岩下不動尊、玉山の「松茸狩り場」を過ぎると馬頭観音群を見ることができる。玉山村史によると、路の険しさに命を絶つ馬も多かったらしく、近隣の五村（上二井田、下仁井田、塩木、戸田、中嶋）が資金を出し合って掘削し、明治5年に馬頭観音を祀ったとある。

岩の切通を越すと玉山共有林の貨車を改造した倉庫のある広場に出る。広場から作業道を北に進むと、産業遺産と言える地元の銘石「日の出石」採掘跡地の岩壁を見ることができる。

広場から右の作業道を辿り、途中から藪をかき分けの尾根に取りつき宗賀岩へ、約 30 分。

***日の出石** 四倉町周辺の墓地では、ベージュ色の古い砂岩の墓石をよく見かける。この石は、かつていわき市四倉町玉山地区で採掘されていた日の出石です。

墓石以外にも、土木資材や建築用の石材として、また戦中には防空壕の土留めなどにも利用されたそうですが、終戦とともに採掘は終了しました。風化に強い砂岩で古くなっても文字がくっきり読み取ることができます。

東京大学安田講堂のエントランス部分に豊富に使用されており、風化した石材の表面には、動物が砂の中をはいまわった跡である、とてもきれいな生痕化石が見られるそうです。



横根山、都室山の早春の花々

2020年3月22日 櫻村2、太、山縣、菊地、二瓶、外1

高萩市の花貫溪を起点に横根山、沢尻湿原、都室山を周回し、イワウチワほか早春の花々を堪能した。

花貫ダムの下「花貫さくら公園」の駐車場に駐車。公園の桜はまだ一分咲きにも満たない。橋を渡って下流側に歩く。公園のガードレールに小さな案内板があり、そこから登山に入る。

登山口から20分ほどで最初のイワウチワを発見。小さな可憐な花が一輪だけでひっそりと咲く。痩せた支尾根を登って行くと、道の両側ところどころに大小の群落が次々と現れる。見事なものだと感心するが、昨年より少ないという。

登り切ると主脈を歩くようになり、すぐに沢尻湿原。ミズバショウが3株ほど咲いていた。主尾根は樹林で覆われているので、展望は少ない。「横根山」も、近くの「見晴の丘」も高萩市方面が見えるのだが、樹木が視界を微妙に遮る。大きな反射板がある「横根山」に到着すると、ひと休み。飲み物のほか菓子や果物で憩う。周辺にカタクリがあるとされていたが、見つけれなかった。

主尾根のアップダウンをずっと行くと、ミヤマシキミ、アセビ、クロモジなど、少ないながら色々な樹の花を見ることができた。伐採地まで来ると、「都室山」はもうすぐ。樹林が切れて、遠くに日立市の「高鈴山」を見ることができる。

伐採地の急坂を登り切ると、花貫溪「名馬里ヶ淵」付近へ下る道の分岐がある。支尾根の急斜面にイワウチワの群落があるというので、期待して途中まで行った。しかし、あまり株に花が付いておらず、昨年より花が少ないというのは本当のようだ。諦めて「都室山」の山頂で昼食にした。

「都室山」から鳥曽根登山口に下山し、登山口近くの梅林を眺めて、「名馬里ヶ淵」や「花貫ふるさと自然公園」の前を通り、駐車場まで歩いて戻った。

(文責：太)

コースタイム

7：50 花貫さくら公園→9：25 沢尻湿原→9：45 見晴の丘→9：50 横根山→11：20 四〇〇m峰→11：40 伐採地→12：10 都室山→13：20 鳥曽根登山口→13：50 名馬里ヶ淵→14：00 茨城百景花貫溪→14：35 花貫さくら公園

